



WEBでも見れる!



**大暑** 第59号  
令和3年7月発行

各社・各部署は掲載事項がありましたら、管理本部までお送り下さい。  
TEL089-921-3030  
FAX089-913-7432  
k.hayase@ikee.jp (担当 早瀬)

**Grp** 新型コロナワクチン 職域接種を実施

6月28日(月)より、愛亀事業本部にて新型コロナウイルスの職域接種を実施しました。7月9日(木)に全ての方の1回目の接種が完了したことを報告致します。



2回目の接種もご協力よろしくお願致します。

「ご協力いただいた皆様に感謝カメ〜!」

**游亀** 緑の町医者 愛亀グループ共同植樹

2010年8月に伊予銀行が中心となり発足された「森のあるまちづくり」をすすめる会は、横浜国立大学 宮脇名誉教授の提唱される「宮脇方式」※として、愛媛県松山市 地元企業と共に累計5万本以上の植樹を行っています。

愛亀グループ(株)游亀ではその活動のサポートをさせて頂いており、土壤改良 苗木

の手配設備などイベントに参加した皆さんが笑顔で帰れるようにという気持ちで裏方として努めてまいりました。

今回の共同植樹は、愛亀グループ事業本部の竣工ということもあり、初めて自社で行われる事となりました。

新型コロナウイルスの影響で一度は延期になりましたが、令和3年6月11日(金)に愛亀グループ・地元園児 関係者等 80名程の参加者でヤブツバキサンゴジュ・シヤリンバイなど16種類、145本の中低木(苗木)の植樹を行うことが出来ました。

伊予銀行様奇贈の記念樹には、茶花として愛されている「リキュバイ」を植樹し、花言葉にある「控えめな美しさ」「気品のある企業であり続けて欲しい」という想いを込めているとの事でした。



植樹した苗木の本数は少量で、イベントもあつという間に終わってしまいました。内容のある共同植樹祭になりました。

皆様に一生懸命 植えていただいた苗木が、すくすく空に向かって成長しますように。

〈游亀/玉井祐樹〉



▲植樹を終えて、記念撮影。

**游亀の皆さん**



**愛亀事業本部に ラウンドアバウトを導入**

愛亀事業本部、構内北側(プラント側)に安全措置としてラウンドアバウトを導入致しました。通行の際には必ず時計回りでお願致します。

ご安全に!!



(※1)「宮脇方式」とは横浜国立大学名誉教授の宮脇昭(みやわきあきら)氏が提唱する植樹方法で、その土地に由来から生息する樹種複数種を混植・密植することで植物間の生存競争により、通常の植樹よりも成長速度が早く丈夫な森ができる。災害にも強い「ほんものの森」をつくる植樹方法。

**加賀工業 新社屋落成**

昨年、10月から取りかかっておりました加賀工業(株)の新社屋が6月の中旬に完成しました。びるり、愛亀 游亀、管路、愛媛中予採石、加賀(敬称略)と愛亀グループの力を最大限に活用し、転用物件とは思えないような立派な建物が完成しました。引越しも事務所しか終わっていない状況に加え、残工事もありますので、しばらくはバタバタした状況が続くと思いますが、環境面の整った新社屋に移り今まで以上に仕事に励みたいと思います。

〈加賀工業/高橋誠修〉



**Grp** オリジナルTシャツ



▲今年入社の方 泉くん、井原くん、藤内くん

暑い日が続きます! 熱中症対策を万全に!

**愛亀Grp リレーコラム**



今回は、山本悠介さん(工務部)

昨年の11月に入社した工務部の山本悠介です。入社当初は総務部でお世話になり、2月から工務部に異動になりました。BCP、コスモスなどに携わらせてもらっています。

好きなことを書いていいとのことなので、趣味について書かせてもらいます。

すごく多趣味でアウトドア、インドアなんでもするんですが、特に力を入れているのが「トレイルランニング」です。初耳の人にもいるかもしれませんが、山を走る競技で、目標は100マイル(160km)以上のレースを完走です! 最終的には海外のレースに出てみたいかと考えています!

今はトレイルランニングに力を入れています。が、キャンプ、素潜り、スキューバダイビング、スカイダイビング、SUPなどアウトドア全般大好きです。是非趣味が合う方は山に海に出かけましょう!

まだ入社から半年と少しでわからないことも多いですが、何事にも挑戦する姿勢を忘れることなく、早く会社力になれるように努めていきます。今後ともよろしくお願致します。



実はこんなにアクティブなんです!



**Grp**  
令和3年度土木学会四国支部  
技術発表会

5月29日(土)、令和3年度土木学会四国支部 技術発表会がありました。  
「地方建設会社の海外進出の挑戦」と題して西山社長がオンライン講演会を行い、社員も社内からZoomにて参加しました。



**あぐり**  
田んぼの町医者  
じゃがいも収穫体験

6月1日(火)、みその保育園の子ども達がじゃがいもの収穫体験にやってきました。かわいいスコップとバケツを持って、「生懸命土を掘ってはおいもを見つけ喜んでくれていました。中には、土遊びに夢中な子や、土から出てくる虫に釘付けな子もあり、それぞれ楽しんでくれたようです。いい思い出になれば幸いです。協力いただいたあぐりの皆さんありがとうございました。」

おいもみつけた!  
おいもいっぱい  
とれました!



**あぐり**  
田んぼの町医者  
田植え

6月に入り、あぐりのほ場で田植えが始まりました。田んぼごとの特徴を見極めながら、秋の収穫まで手間を惜しまず育てていきます。今年のおぐり米もお楽しみに!



スオースダイ(クメール語でこんにちは)。カンボジアABCの山田美和です。  
カンボジアの首都であるプノンペンが4月15日からロックダウンとなりました。夜間の外出禁止に加え、食料品の買い物は週2回まで、ほとんどの企業活動が禁止となり、出社できない事態となりました。とはいえ、オンラインでの業務は認められているため、毎朝のミーティングは決行し、スタッフの無事は確認できました。私はアパートとIPSオフィスが同エリア内なので歩いて問題なく出勤出来ました。いつもは交通量が多い市内の幹線道路にはバイク、車がまばらで、オフィスの周辺もテープによる通行規制がありました。

海外事業室  
山田美和



道路には通行規制のテープが。

**愛亀**  
伊予高校  
オンライン職業体験

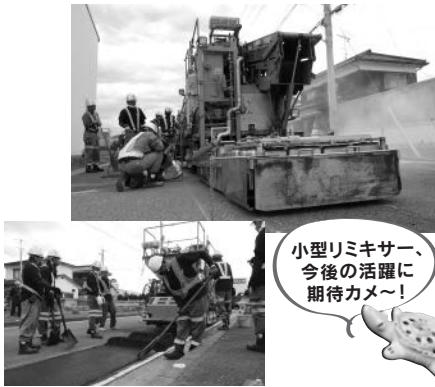
伊予高校の職場体験をオンラインで行いました。愛亀について知ってもらうとともに、高校生にこれからの将来に向けてのアドバイスをすることができました。



伊予高1年生の皆さん

**愛亀**  
道路事業部  
小型リミキサー本施工

7月7日(水)、伊予市にて小型リミキサーの本施工を行いました。試験を繰り返し改良を重ねた結果、無事本施工を完了することができました。



小型リミキサー、今後の活躍に期待カメ〜!

一句一游



今日は、皆様に御礼を申し上げねばと筆を執っております。  
この度、「愛媛県現代俳句協会新人賞」を受賞いたしました。  
これもひとえに、社内報で連載を持たせていただいたおかげです。社長ならびにご愛読の皆様、本当にありがとうございました。  
師事する先生にも、表現者たり得る自覚と、完成度がついてきたと褒めていただきました。社内報を読んだ感想をおっしゃっていただいた皆様のおかげです。  
この新人賞は、30句一組のタイトルを付けた連作のようなものです。全ての作品を載せさせていたできたところですが、紙面の都合上、抜粋してご紹介させていただきます。  
※全作品は、「俳句年鑑」という出版物に掲載予定です。



表彰状  
新人賞「海へ」  
阿部拓朗 敬  
全日本現代俳句協会  
主催の第22回現代俳句新人賞  
において、愛媛県現代俳句協会  
より「愛媛県現代俳句協会新人賞」  
を受賞いたしました。

「海へ」抜粋12句

情夫なり吹雪の夜を歩き来て  
一月やサイフォンに濾過させて夜  
紙飛行機踏みしだかるる雪の町

冬の句は、どうしても情念の世界に嵌りがちである。  
リアリティにおける正解はどうあれ、フィクションの断定が詩を生むのだ。作品の中では、夜という不思議な時間を共有する句が多い季節でもある。  
白と黒の対比、濁った汚された白。何を切りとるのかを選ぶことが俳人の一歩目なのだと思う。

春暁や海へ抜け出すための窓  
春昼の翼たためば墮ちやすく  
憎しみも春も骨壺に納まらぬ

春の句からは、明るさと気急さが漂う。タイトルに採用したのは、中心の柱となる一句である。この辺は好みが、「恋」をタイトルとする人も多いだろう。  
でも、僕のイメージでは、「海へ」だった。向かう先が海なのはなせだろうか。  
海のような男になりたいのかもしれない。大きな目標のようで、指針なのだと思う。  
海を聴く少女に揺れてゐる素足  
どこみても浴衣どこにもいない母  
サアカスの眠りを包む花火かな

夏の句は、寂しさを素直に吐露できない心情が描かれている。  
夏と言えば二元気でエネルギーが売りにもある。躍動感の最たるものだろう。そんな周りに合わせることに、疲れることもある。はみ出たままの自分で折り合いを付けていこう。  
少女の素足も、いなくなった母も、何かの言いたげに表現される。溢れてしまったものかもしれない。  
キリストの腰布固し秋夕焼  
なほ小さき湯濯装束虫時雨  
秋日濃し打ち捨てられし哺乳瓶

秋の句は、雄弁すぎる。季語に内包された寂しさが表現を越えて暴れる。  
だからこそ、二物衝突と言われる、物との取り合わせが輝く。物に語りかけることが出来るのだ。  
キリストの腰布も湯濯装束も哺乳瓶もすべて物であるが、ドラマが織り込まれている。繊細な内面が、何人かには突っ込まれるかもしれないが、あふれ出るのだということにしておこう。  
どれか1句でも欠けていけば、賞には値しなかったでしょうし、僕の表現にもならなかったと思う。皆さんにとって、一つでも心に残る句との出会いがあれば幸いです。  
ぜひ、僕を見かけたら、感想の一つでも投げかけてください。お待ちしております。

〈管理本部/安部拓朗(奈月)〉